



# 長谷川テル通信

2019/3/20

創刊号

大阪・長谷川テル

顕彰の会

## 奈良、大阪で反戦を訴え続けた長谷川テル女史を顕彰する会が結成される

私たちは、日中戦争のさなかに、現地ラジオ放送局から日本の将兵に反戦を訴え続けたエスペランティスト長谷川テル女史(1912—1947)(以下、「テル」)の事績を研究し、テルの思想を学び今に生かし語り継いで行くため、2018年6月に「治安維持法犠牲者・長谷川テルエスペランティスト顕彰奈良県実行委員会」が発足し、その呼びかけに応じて、大阪でも「大阪・長谷川テル顕彰の会」が7月に結成されました。

顕彰運動の目的が、長谷川テルの自立した女性としての歩みと、「国境・民族・言葉の壁」を超えて心身を投げ打って反戦・平和の声を日中戦争の現場から全世界に轟かせた偉業を学び讃えることにあることはいうまでもありません。それとともにテル女史が敗戦後ひと月も経たない時に、日本の軍部政権による第二次世界大戦の歪んだ終え方によって、日本が大きな「欠落」をかかえたまま戦後を歩まざるをえない、と指摘した意味を、改めてしっかりと受けとめることが大切です。

### 〈テルを理解する一口メモ 長谷川テルの生涯—その1〉

#### 出生・少女・自立へ (1912-1937年)

1912年3月7日山梨県現大月市で父母幸之助よねの次女として出生。

1924年 東京府立第3高等女学校入学。

1929年 17歳 奈良女子高等師範学校に入学寮生活。

1932年 20歳 長戸恭とともにエスペラントを学ぶ 奈良の文化団体・労組・農民運動ともエスペラントを介して交流。

1932年9月 新学期早々治安維持法違反容疑で長戸と共に検挙退学を余儀なくされる。卒業まで半年のことだった帰京日本プロレタリア世界語者同盟に加入。

1933年 小林多喜二『蟹工船』をエスペラントに抄訳。

1935年 上海のエスペラント協会『ラ・モンド』に「日本婦人の状況」掲載。

1936年 24歳 エスペラントを通して交際を深めた東京高等師範学校中国人留学生劉仁と結婚父は猛反対母と姉ユキが祝福。

1937年4月14日 日本の中国全土への侵略拡大

を憂い救国の意思を胸に帰国した夫劉仁を追って横浜港を立つ上海で劉仁と合流上海のエスペランティスト葉籟士張企程と邂逅直ちにエスペラント誌『中国は吼える』で反戦執筆活動に入る。

(4ページへつづく)



経路図は、「長谷川テル」(せせらぎ出版)より転載

## 大阪の治安維持法犠牲者名簿作成のこと

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟  
大阪府本部会長 有川功



この原稿を書くにあたって、再度2015年7月に行われた「日中不再戦記念 平和友好の集い」の記録を見ました。あの長谷川テルの息女長谷川暁子さんのお話を聞きたかったからです。暁子さんは「戦争は地震や台風とは違う」と反戦・平和への意気込みを切々と語りました。ご承知のとおり、そのテルも治安維持法弾圧犠牲者の一人です。今、大阪の国賠同盟では大阪にゆかりの治安維持法犠牲者の名簿作成の途上にあります。近畿では和歌山、奈良、兵庫、滋賀の各県ですでに発行されているのですが大阪、京都で手付かずだったのです。その一因は犠牲者の数の多さです。特高月報や思想月報、その他の文献を中心に整理しており、まだ最終確定はしていませんが900名を超えるものとなるでしょう。当初、5月には完成させたいと意気込み、11月に初稿を印刷所に回したのですが校正に手間取っています。とは言え、初稿の範囲でも幾つかの特徴がわかります。

一つは大阪での逮捕者とはいうものの、その本籍地は関西を中心に広く全国に分布していることです。大都市大阪の特徴でしょうか。二つには犠牲者の多くが青年だということです。未来を開く青年の役割は昔も今も大きいと言えるのでしょうか。三つには女性の役割です。直接の犠牲者名数の多くありませんが著名な活動家も多くいます。四つめにあげたいのは戦前、朝鮮を領有していたこともあり、朝鮮出身の犠牲者もかなりの人数が含まれています。朝鮮を属国化していた戦時中特有の現象で内外の区別はありません。最後に、当初は共産主義、またはその同調者への弾圧犠牲者が中心だったのですが、目的遂行罪が設定されて以降、コミンテルンの反ファシズム統一戦線論に同調したとして社会民主主義者も犠牲者となり、宗教者に至るまで拡大解釈はとめどなく広がってしまったことなどです。ともあれ、この名簿の完成までとことん頑張るつもりです。乞うご期待！

## 「日中不再戦」は日中友好運動の原点

日本中国友好協会大阪府連合会  
会長 渡辺 武



昨年(2018年)7月8日、治安維持法賠償要求同盟大阪府本部と日中友好協会大阪府連が呼びかけ人となって「大阪・長谷川テル顕彰の会」が設立されました。

長谷川テル(1912-47)については、その生涯の概要が本「通信」に紹介されています。しかし残念ながらほとんどの日本国民は確かな事実を知りません。日中友好協会大阪府連でも彼女を本格的に取り上げたのは2015年7月の「日中不再戦 平和友好の集いー長谷川テルの生涯と活動を学ぼう」が初めてでした。しかし、学べば学ぶほど長谷川テルという人の果たした役割の重要さが分かり、顕彰運動の必要性が痛感されます。

日中友好協会の会則には会の目的として「日本政府の侵略戦争の歴史を教訓にして、日本と中国が再び戦うことがないように、日中両国民の相互理解と友好を深め、…」と明記されています。

ところが日本の現状は、不平等な日米経済軍事同盟の下で中国脅威論が喧伝され、それを口実に軍拡と改憲が強行されようとしています。戦前美化論・侵略事実否定論も強まっています。私たちは天皇制軍国主義日本の侵略の歴史をありのまま学び、その再来を防がねばなりません。日中友好運動の基礎は「不再戦・平和」にあり、当面私たちは、「南京の記憶をつなぐ」・「日本軍廃棄毒ガス問題」とともに「長谷川テル顕彰」を重点課題の一つとして取り組みます。



(写真は、長谷川テルと佳木斯にある劉仁とテルの墓)



(結成総会の様子です。)

中国で日本兵に反戦訴えた長谷川テル

## 大阪で顕彰の会を結成

「大阪・長谷川テル顕彰の会」が発足し、8日、大阪市内で結成の集いが開かれました。

長谷川テルは山梨県に生まれ、奈良女子高等師範学校(現、奈良女子大)に入学。在学中に世界共通語エスぺ란トの運動と出会い、治安維持法違反容疑で検挙、退学させられました。日中戦争勃発直前の1937年、エスぺランチストで夫の中国人・劉仁と共に中国へ渡り、戦下の現地ラジオ放送局から日本兵士に反戦を訴え続けました。

大阪では戦後70周年の2015年夏、日本軍の侵略反対と日中友好を貫いたテルの生涯と活動に学ぼうと「日中不再戦・平和友好のつどい」が開かれ、奈良では、顕彰実行委員会が今年6月に結成されました。

大阪の集いには、日中友好協会大阪府連、治安維持法同盟大阪府連、エスぺ란ト関西連盟の会員や市民らが参加。テルを紹介したテレビ番組のDVD鑑賞、「希望の鳩ヴェルダ・マーヨ長谷川テルの歌」の披露、テルの詩朗読、奈良の顕彰会やエスぺ란ト関西連盟のあいさつが行われました。会の趣旨を説明した日中友好協会府連の山本恒人副会長は、テルが戦後も、日中戦争の過ちを認めなかった日本の政権を痛烈に批判したことに触れ、「私たちが主体的に平和憲法を守り抜き、歴史修正主義を許さず、反戦平和のための国民運動を推進する担い手となることこそ、テルの願いに応えることではないか」と強調しました。

同会は、長谷川テルの国際反戦の活動を国内外に紹介、顕彰することを目的に、資料収集、調査・研究、記念碑設置、日本語版・長谷川テル全作品集の刊行などの事業を行います。(大阪民主新報 2018/7/22号)



(写真は、総会風景)

<顕彰の旅 報告>

「日中不再戦 長谷川テル顕彰の旅」を実施

「奈良県・長谷川テル顕彰実行委員会」と「大阪・長谷川テル顕彰の会」が合同で長谷川テル顕彰事業の一環として、8月23日～28日の5泊6日の「日中不再戦 長谷川テル顕彰の旅」を実施しました。

「旅」の一行25名は、8月25日、佳木市市烈士陵园に建立されている長谷川テル(中国名:緑川英子)と夫・劉仁の墓前で佳木市政府と合同で「長谷川テル墓園式典」を実施しました。「式典」を終えた一行は、佳木市政府庁舎を表敬訪問、同市政府外事弁公室主任于俊飛氏ら5人と懇談。午後、長谷川テルの展示コーナーのある佳木博物館を訪問しました。

8月24日、哈爾濱から佳木市に向かう途中、4500人が埋葬されている「方正県日本人公墓」を訪ね黙とうをささげました。26日佳木市から哈爾濱に列車で7時間かけて移動。27日には、哈爾濱郊外の731部隊跡を訪問しました。

全旅程を通じて、一般市民との交流に努め、中国市民の生の声を聴くように努力するなど貴重な体験もし、目的を果たして8月28日に全員無事関西空港に到着、帰路につきました。

結成後、最初の取り組みとして行われた今回の「旅」は多くの成果を挙げ成功しました。同時に、エスぺランチスト、エスぺ란ト連盟(協会)との共同の重要性を再確認する旅ともなりました。

(「顕彰の旅」報告集より)



CD「未来へつなぐレクイエム」(kei sugar)

長谷川テルを歌った、「希望の鳩-ヴェルダマーヨ」収録好評発売中 取扱ってます。頒価 1000円



<テルを理解する一口メモその2>1面のつづき  
**日中戦争下、反戦活動 反戦放送に従事  
(1937-45年)**

1937年7月 盧溝橋事件により日本軍日中戦争に突入。8月 第二次上海事変で上海を爆撃。  
12月 日本軍南京大虐殺テル夫妻広東に脱出。  
1938年2月 26歳広東で長谷川テル国外追放テルとともに劉仁も香港に脱出郭沫若やエスペランティストの援助のもとに武漢に向かう。  
6月 武漢到着テルの反戦放送開始。9月武漢陥落直前に移転首都重慶に向かう。  
11月1日 東京の『都新聞』「嬌声売国奴の正体はこれ怪放送祖国へ毒づく」の見出しでテルの反戦放送を実名入りで報道。12月テル夫妻重慶に到着。  
1939年 日本軍重慶無差別爆撃開始国際宣伝処所属反戦放送に従事しつつエスペラント誌『中国報導』で全世界に日本軍の歪行と中国の抗戦および平和と人類正義への願いを発信。  
1941年29歳 7月「重慶文化人大会」で中国共産党重慶代表・周恩来がテルに向かって「日本帝国主義者はあなたを売国奴アナウンサーなどと言っていますが実際はあなたは日本人民の忠実な娘でありあなたこそ日本の真の愛国者なのです」と称賛。この年長男劉星を出産。  
1942年30歳 テルが愛してやまず詩「二つの失われたリンゴ」を捧げた母よね逝去。それをテルは知る由もなかった。  
1943年 『闘う中国で』執筆開始中国共産党機関紙『新華日報』にも文章を寄せる。  
1944年 夫劉仁が編集長を務める「東北民衆抗日救国総会」の雑誌『反抗』で編集の任に当たる。抗日戦争戦局好転につれ国民党の妨害きびしくなる。  
1945年33歳 『闘う中国で』5月出版。ついに8月15日日本敗戦。たいまつ行列に参加。  
9月11日『新華日報』にテル「岐路に立つ日本」を執筆、「日中戦争の失敗を全く認めない」降伏文書を批判「日本が再び歩みかねない危険な道について警告を発した。国民党による内戦への動きを食い止め東北満州の復興に参画するようという周恩来の要請に従い東北に向かう。

<テルを理解する一口メモその3>  
**重慶から東北最果ての地への旅路  
(1946-47年)**

1946年34歳 幼い劉星を連れた延べ1万2000キロの長旅が始まるー重慶から武漢。武漢から上海。重慶では息子劉星が国民党特務により誘拐されたが国共休戦協定で取り戻すという事件にも遭遇。  
2月上海から船で北上。瀋陽で長女暁子(劉暁嵐)出産。ハルピンから佳木斯へ列車、汽船、馬車、徒歩軍用トラック、病身には過酷な旅であった。  
1947年1月 劉仁・テル夫妻は東北社会研究所研究員に任命される。  
1月10日 3人目懐胎を知ったテルは激化する内戦のもとでの自身の病弱と仕事と育児を考え中絶を決意したが術中の感染症で逝去(34歳)。  
最後の言葉「日本に帰りたい…お母さん…」であった。夫劉仁はテルの埋葬を一時拒絶4月に逝去(37歳)。重慶でともに活動した「東北民衆抗日救国総会」指導者高崇民は東北解放後、東北行政委員会副主席となりテル夫妻の埋葬地を探し出しテル夫妻の現在に至る墓碑を建立。劉星は叔父のもとへ、暁子は、烈士子女の待遇でハルピンの幹部子弟孤児院に引き取られた。劉仁の弟劉介庸からテルの死を知らされたエスペランティストの由比忠之進が48年帰国。テル死去の報を日本にもたらした。  
(\*由比忠之進は、67年アメリカのベトナム侵略戦争に加担する日本政府に抗議して焼身自殺した人)  
(一口メモ 長谷川テルの生涯 この項終わり)

**(事務局より お願いとお知らせ)**

- \*会員を増やしてください。
- \*会費納入口座できました。

<郵便局から>

記号番号 14020 - 51581541

口座名 大阪 長谷川テル顕彰の会

<銀行など他の金融機関から>

ゆうちょ銀行 四〇八 (普)5158154

口座名 大阪 長谷川テル顕彰の会